

Y03b

## しし座流星群CGの成果と99年版の制作

毛利勝廣（名古屋市科学館）、野田学（名古屋市科学館）、鈴木雅夫（名古屋市科学館）、北原政子（名古屋市科学館）、吉川真（宇宙科学研究所）、安田孝美（名古屋大学情報文化学部）、山本晃裕（名古屋大学人間情報学研究科）、大河内俊則（作曲家）、山田卓（DOMIC）

昨秋、33年ぶりのしし座流星群の大出現が話題となった。多くの市民が関心を持つこういった天文現象に関して、科学的かつ教育的に正しい姿を提供するため、コンピューターグラフィックスによる動画を制作し名古屋市科学館プラネタリウムで活用した。また様々な教育現場やマスコミでも多く使用された。社会教育施設の学芸員、軌道の研究者、CGの研究者の3者が協力して教育的CGを作るこの協力関係も1994年のSL9、1995年の土星の環の消失、1996-7年のヘール・ボップ彗星につづき4作目となった。今回はこのしし座流星群CGについて、昨年の活用事例とその成果を報告し、現時点での99年度版を発表する予定である。